

NEWSLETTER No.113 **TŌYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ**  
ISSN 1340-5578 The Society for Research in Asiatic Music September 17, 2021

一般社団法人 **東洋音楽学会** **会報** 第**113**号

発行 一般社団法人東洋音楽学会  
事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152  
●E-mail: LEN03210@nifty.com ●ホームページ: http://tog.a.la9.jp

## 目次

第10回定時社員総会のお知らせ..... 1	東日本支部からのお知らせ.....7
総会への出席と「書面決議書」または 「委任状」提出のお願い..... 2	西日本支部からのお知らせ.....7
第72回 大会のご案内..... 2	竹内道敬氏・草野妙子氏のご逝去.....7
第39回田邊尚雄賞アンケートのお願い..... 3	竹内道敬先生の思い出.....8
メールアドレス登録へのご協力へのお願い..... 3	草野妙子氏を悼む.....8
情報委員会よりのお知らせ..... 4	会員異動.....8
会員の受賞..... 4	図書・資料等の受贈.....9
会費納入のお願いと会費割引制度のお知らせ..... 4	新刊書籍.....9
『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ..... 5	新発売視聴覚資料.....11
ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ..... 5	編集後記.....11

### 第10回定時社員総会のお知らせ

一般社団法人東洋音楽学会 正会員各位  
一般社団法人東洋音楽学会 会長 福岡正太

#### 第10回定時社員総会招集状

一般社団法人東洋音楽学会定款第16条及び第18条の定めに基づき、第10回定時社員総会を下記の通り開催いたしますので、正会員はご出席下さい。

日時 2021年10月30日(土) 17時20分~18時20分  
場所 インターネット会議システム (Zoom) を使用

\*ミーティングID等は電子メールにてお知らせしますので、大会参加申込の時に、必ず電子メールアドレスをお知らせください。

#### 審議事項

- 第1号議案 令和2年(2020年)度事業報告の件
- 第2号議案 令和2年(2020年)度収支決算の件
- 第3号議案 令和3年(2021年)8月31日現在貸借対照表および正味財産増減計算書の件
- 第4号議案 令和3年(2021年)8月31日現在会員移動状況の件
- 第5号議案 名誉会員推薦の件
- 第6号議案 その他

#### 報告事項

- 令和3年(2021年)度事業計画の件
- 令和3年(2021年)度収支予算の件
- その他

\*総会に出席できない正会員の方は、「書面決議書」または「委任状」の提出をお願いします。詳しくは、別項「総会へ

の出席と『書面議決書』または『委任状』提出のお願い」をお読みください。

\*上記以外の議案を提出なさりたい方は、あらかじめ事務局にご連絡ください。

## 総会への出席と「書面議決書」または「委任状」提出のお願い

正会員のみなさん、総会の成立には正会員の過半数の出席(議決権の行使)が必要です。

総会への出席(議決権の行使)は一般社団法人の正会員の権利であり、責務でもあります。総会にはぜひご出席ください。今回の大会は遠隔(オンライン)開催のため、インターネット会議システム(Zoom)を使用した総会となります。やむを得ず総会を欠席する場合は、下記のいずれかによって議決権を行使することができます。

### ①「書面議決書」の提出

書面議決書とは、議案への賛否をあらかじめ表明する文書です。議案書および回答フォーム/書面議決書書式は、10月16日までに学会ホームページ(<http://tog.a.la9.jp/>)に掲載されます。担当理事から、10月中旬に「書面議決書提出のお願い」を電子メールにて配信しますので、議案書を読み、10月28日までに、回答フォームで回答するか、書面議決書の書式をダウンロードし、個々の議案への賛否を記入して、議案書に記したメールアドレス宛に返信してください。

インターネットを使わない正会員の方で、書面議決書の提出を希望される方は、学会事務局にご相談ください。

### ②「委任状」の提出

他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができます。委任する方は、同封されている「総会欠席葉書」の委任状の欄に、代理人の氏名とご自身の氏名を記入し押印し、10月4日までに投函してください。代理人は総会に出席する正会員のみが認められます。なお、空欄の場合は、会長に代理人の選任を一任したものと扱います。

## 第72回大会のご案内

東洋音楽学会第72回大会は、新型コロナウイルス感染症への対応として、東洋音楽学会ウェブサイトを経由したライブ配信(YouTube)及びビデオ会議システム(Zoom)を利用し、国立民族学博物館との共催により開催致します。第72回大

会では、初の試みとして、「みんなくシアター」「東洋視聴覚ライブラリー」といった大会特設サイトも設置致します。多くの会員のご参加をお待ちしております。

◇日時 2021年10月30日(土)、31日(日)

※「第72回大会特設サイト」は2021年10月23日(土)～31日(日)の期間中アクセス可能

◇会場 東洋音楽学会 第72回大会特設サイト

(参加登録・参加費振込が完了した方にID・パスワードをメールにて通知)

◇大会テーマ 「音楽研究とメディアの歴史と未来」

◇日程

[第72回大会特設サイト] (10月23日～10月31日公開)

- みんなくシアター
  - ・映像民族誌『アリラン峠を越えていくー在日コリアン音楽の今』(75分) など30作品以上
- 東洋視聴覚ライブラリー
  - ・公開シンポジウム「音楽研究とメディアの歴史と未来」の関連映像・音源
  - ・映像発表作品

[第1日] 10月30日(土)

13:20 開会挨拶(ライブ配信)

13:30 公開シンポジウム「音楽研究とメディアの歴史と未来」(ライブ配信)

登壇者: 小島美子、丹羽朋子(非会員・文化人類学者)、大石始(非会員・音楽ライター)

コメンテーター: 久万田晋 司会: 福岡正太

15:30 座談会「アリラン峠を越えていくー研究・公演・映像を通じた実践」(ライブ配信)

対談者: 寺田吉孝、高正子(こお・ちょんじゃ、非会員・在日コリアンの文化研究)、安聖民(あん・そんみん、非会員・パンソリ唱者)

パンソリ: 安聖民(唱者)、趙倫子(ちょ・りゅんじゃ、非会員・鼓手)

司会: 福岡正太

16:40 第38回田邊尚雄賞授賞式(Zoom オンライン)

17:20 第10回定時社員総会(Zoom オンライン)

\* 第72回大会では懇親会は開催致しません

[第2日] 10月31日(日)

9:00～17:00 個人発表および共同発表(Zoom オンライン)

映像発表(映像作品はYouTubeにて公開、質疑応答はZoomオンライン)

◇参加方法

オンライン大会参加には、2021年10月4日(月)24:00までに、1)「第72回大会出欠回答フォーム」からの参加登録と、2) ゆうちょ口座への参加費振込が必要です。参加登録と参加費振込が完了した方に、「第72回大会特設サイト」へのログイン情報を10月中旬頃にメールにてお知らせ致します。

◇参加登録方法

東洋音楽学会ホームページ「大会案内」から、「第72回大会出欠回答フォーム」にアクセスして参加登録ができます。下記のURLまたはQRコードからも、直接、参加登録が可能です。

「第72回大会出欠回答フォーム」:

<https://forms.gle/nmycMXtwVbp2BFsc6>



◇参加費振込方法

参加費: 正会員: 3,000円

正会員のうち大学院生(修士課程・博士課程・研究生在籍者)と学生会員: 1,500円  
非会員: 3,000円

振込先: 下記のゆうちょ銀行口座にお願い致します(振込取扱表はお送りしていません)

振込先	ゆうちょ銀行
口座名義	社)東洋音楽学会 シャ)トウヨウオンガクガクカイ
口座	◇ ゆうちょ銀行から 記号 10150 番号 93437151 ◇ 他金融機関から 店名〇一八(ゼロイチハチ)店番 018 普通預金 口座番号 9343715

◇デジタル環境の問題でオンラインでの大会に参加できない会員へ

公開シンポジウム・座談会(抜粋の場合もあり)に関しては、上記に該当する希望者のみにDVD映像を送付致します。下記の大会実行委員会へ10月18日(月)までにお知らせください。参加費のお支払い、使用目的に関する誓約書のご提出が必要となります。

◇大会実行委員会

上畑史 植村幸生(本部経理) 大久保真利子 岡田恵美(委員長) 神野知恵 金悠進 田中多佳子(本部総務)  
中安真理 福岡正太(本部総務) 福岡まどか

◇お問い合わせ

お問い合わせフォーム:

<https://forms.gle/xomvmju5EPyhUmNr8>

(東洋音楽学会ホームページ「大会案内」から、アクセス可能です)

東洋音楽学会 第72回大会実行委員会

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1 国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 岡田研究室内

### 第39回田邊尚雄賞アンケートのお願い

第39回田邊尚雄賞選考委員会では、新刊情報を広く収集しています。会員の業績を顕彰する貴重な機会ですので、著作物を出版される際は、選考委員会までお早めにお知らせください。自薦のほか他薦も歓迎いたします。

選考対象: 2021年1月1日~12月31日の発行物

受付期間: 随時。締切は2021年2月上旬(予定)。

記入事項: 著者名、書名、発行年月日、発行所名。なお、論文の場合は、掲載誌、巻次、編集者名、論文頁数も記してください。推薦理由を簡潔にお書き添えていただいても構いません。

送付先: 東洋音楽学会 第39回田邊尚雄賞選考委員会

(郵送) 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号  
(FAX) 03-3832-5152

(電子メール) [LEN03210@nifty.com](mailto:LEN03210@nifty.com)

※ご連絡の受け取り確認などは遅れる可能性があります。

選考委員: (再任) 大内典、塚原康子、三浦裕子

(新任) 高松晃子、飯野りさ

### メールアドレス登録へのご協力をお願い

現在、本学会では学会からのご連絡・ご案内を郵送のみに頼っている現状を改善し、電子メールによる、より細やかで速やかなご連絡・ご案内を実現すべく、最新のメールアドレスの収集を行っています。メールアドレスを既に事務局にお届けいただいている方や名簿にメールアドレスが掲載されている方も、既に使用されていない等のため届かない場合が少なくありません。

まだ登録されていない方、変更のあった方は最新のメールアドレスを学会ホームページの名簿情報登録フォームあるいはメール(LEN03210@nifty.com)にて学会事務局にお知らせいただけますよう、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 情報委員会よりのお知らせ

本学会では会員管理および情報発信業務におけるデジタル化と効率化を進めるため、みなさまのメールアドレスの確認を進めております。最新のメールアドレスのお届けがまだの方は、別掲記事にもありますように、学会Web内「会員のみなさまへ」→「名簿情報登録フォーム」より引きつづきご登録いただければ幸いです。またすでに試行を始めた会報などの郵送廃止についても、漸次対象範囲や期間を拡大していく予定です。より多くの会員のみなさまから、郵送停止のご希望をいただけますと幸いです。また会員間での迅速な情報流通を進める方向で、情報環境についても整備を進める予定です。

## 会員の受賞

会員の徳丸吉彦氏が国際音楽学会の2021年度グイード・アードラー賞を受賞されました。

本賞は、学会設立者で音楽学研究に大きな貢献を果たしたグイード・アードラー-Guido Adler (1855-1941)を記念して2017年に創設されたもので、音楽文化への貢献が著しい研究者の中から毎年1~2名が選出されます。

国際音楽学会ウェブサイト\*には、徳丸氏の選出理由が以下のように記されています。

5つの言語で発表された、極めて重要な研究書の数々と、お茶の水女子大学及びカリフォルニア大学ロサンゼルス校における卓越した教育業績、ガーランド世界音楽百科事典、ラールス世界音楽事典、ニューグローヴ世界音楽大事典の日本語版といった、主要な国際版事典・百科事典の編集実績、さらに、著書『民族音楽学』で東洋音楽学会から授与された田邊尚雄賞、第20回国際音楽学会東京大会における基調講演者への選出が、主な選出理由です。徳丸氏は、日本音楽の様々な研究から、間テクスト性、音色、音組織、アメリカ音楽の影響、三味線へと研究対象を広げ、日本の伝統音楽の保存に対して実践レベルで関与しています。徳丸氏の研究は、個々に見ても、また全体としても、今後長きにわたって日本音楽研究の指針となるでしょう。徳丸氏は、植民地主義と戦争に

よって音楽文化が損なわれたことを憂慮していました。そして、伝統音楽の回復と保存のためには、録音や種々のドキュメント類から成る音楽研究の成果を「現地に返す field back」べきであることを提唱しました。国際音楽学会は、徳丸氏のこれらの努力に対して心からの敬意を表します。この「現地に返す」(記者注:「研究成果を現地に返す」という意味の徳丸氏の造語)の強調は、音楽研究の社会的責任を考える上で新たな見識を示しました。

高松晃子

\*<https://www.musicology.org/awards-and-programs/ims-gap/95-awards-programs/250-ims-gap2021>

## 会費納入のお願いと会費割引制度のお知らせ

### 1. 会費納入のお願い

2021年9月から新しい年度(2021年度)が始まりました。会費未納の方は、金額をお確かめの上お払込くださいますようお願い申し上げます。振込用紙を紛失された場合は、下記学会口座宛にお振込ください。

正会員：8,000円

学生会員(大学院生を除く)、および割引申請者：6,000円

### ○郵便局からの払込

ゆうちょ銀行[口座番号]00160-6-55723

[加入者名]一般社団法人東洋音楽学会

### ○他金融機関からの振込

ゆうちょ銀行[支店名]〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

[当座]0055723

### ○オンライン決済サービスによる納入

ペイパル(PayPal)によるオンライン決済で会費が納入できるようになりました。学会ウェブサイトのトップページ(<http://tog.a.la9.jp/>)の「入会方法はこちら」をクリックし、「入会方法」のセクションをご覧くださいと納入ボタンがあります。オンライン決済にはペイパルへのログインが必要です。ペイパル・アカウントをお持ちでない方は、アカウントを開くと送金できます(アカウント開設費無料)。なお、オンライン決済には手数料が発生するため、納入金額は以下のようになります。

正会員：8,350円

学生会員(大学院生を除く)、および割引申請者：6,280円



## 2. 会費割引制度のお知らせ

本学会には、夫婦・親子割引、大学院生(博士課程・修士課程)・研究生割引の制度があります。それぞれ条件や申込方法が異なります。

学会のホームページ(<http://tog.a.la9.jp/about.html#7>)でご確認の上、お申し込みください。なお、大学院生の割引制度を受けるためには「大学院生会費減額措置願い」と学生証のコピーを、また研究生の割引制度を受けるためには、「研究生会費減額措置願い」と学生証のコピー、履歴書が必要です。次年度以降も継続して減額措置を希望する場合は、毎年、前年度末すなわち8月31日までに、「減額措置願い」を提出する必要があります。

## 3. 会費の滞納者へのご注意

滞納がありますと、会員の権利(研究会・大会での発表、学会の発行物の受取)が行使できないことがありますのでご注意ください。

## 4. 卒論・修論の発表者へのご注意

発表を機に入会された会員にも、新年度の会費納入義務が発生いたします。退会するためには退会届が必要です。その旨ご理解のうえ、会費の納入にご協力ください。

## 『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ

学会機関誌『東洋音楽研究』第87号(2022年8月刊行予定)の原稿を募集いたします。

投稿を希望される方は、学会機関誌最新号に掲載予定の投稿規定および学会ホームページ掲載の「投稿の手引き」をよくお読みの上、ご投稿ください。「投稿規定」は機関誌編集委員会で改定を行うことがあります。必ず最新号でご確認ください。分量の限度を守られない投稿がしばしば見受けられます。ご注意ください(必ず字数を明記してください)。

送付先: 〒110-0005

東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号

東洋音楽学会事務局内 機関誌編集委員会

Tel: 03-3832-5152 (Fax 兼)

送付方法: プリントアウトした原稿を郵送してください。ただし、書留郵便にはしないでください。直接持参、メール添付は受け付けておりません。

なお、封筒の表に、「機関誌投稿原稿在中」と明記してくだ

さい。

締切: 2021年12月6日(月)必着

## ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ

### 1. オンライン総会の報告

ICTMの総会は、隔年で行われる国際大会時に開催されますが、2021年7月に予定されていた国際大会が新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2022年7月に延期されたことを受け、2021年7月24日(土)、日本時間23時よりオンライン総会が行われました。参加者は260名ほどに上りました。以下、総会の概要です。

#### 1) 理事会からの報告

①「ICTMの対話—音楽・舞踊研究における非植民地化に向けて」と題したオンライン・セッションを事務局の主催で開催している。2021年内に24のセッションが行われる予定で、総会までに13のセッションが終了した。「非植民地化」

(decolonization)とは、音楽・舞踊の研究、教育に文化の担い手が携わる新たな協力体勢を進展させ、知識の拡大と芸術の創造を目指すことを意味している。

②事務局を通さない新しいオンライン選挙システムが導入され、選挙の透明性を高めることができた。今年行われた役員選挙の投票率は、過去最高の55%であった。

③2020年11月15日から12月15日に実施されたICTM全般に関するアンケートの参加率は33%で、前回(2018年)の24%よりも大幅に改善された。その結果、学会の透明性について7割が満足していること、学会活動の中で最も重要視されているのがスタディ・グループの活動であることなどが確認された。

④理事会内に、翻訳委員会が設置された。委員長は Silvia Citro (アルゼンチン)。

⑤ICTMの創立70周年を記念して『最初の70年間を振り返って』(Reflections on the First Seven Decades)と題した出版物を準備中である(ICTMはInternational Folk Music Councilの名称で1947年に発足)。編者は、Svanibor Pettan (スロヴェニア)、Naila Ceribasic (クロアチア)、および Don Niles (パプアニューギニア)。

⑥2021年7月時点での会員数は1152名。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大により活動が制限されたことなどから収支は縮小したが、収入が支出を上回った(収支差額、約7850ユーロ)。

2) 機関誌 (*Yearbook for Traditional Music*) 編集委員会からの報告

①これまで年1回の発行だったが、今後、年に2回の発行になる予定である。

②2019年から出版社がケンブリッジ大学出版に変わり、オンラインによる校訂システムが導入された。

3) 各種学会賞の受賞者の発表

①ICTM ドキュメンタリー・フィルム賞

Zoe Sherinian (オクラホマ大学) 監督による *Sakthi Vibrations*

②ICTM 論文賞

2020年度受賞

Tyler Yamin. "One of Several Gamelan? Perpetual (Re)construction in the Life of a Balinese Gamelan Semara Pagulingan." *Ethnomusicology* 63/2 (2019):357-392.

2021年度受賞

Ostashewski, Marcia, Shaylene Johnson, Graham Marshall, and Clifford Paul. "Fostering Reconciliation through Collaborative Research in Unama'ki: Engaging Communities through Indigenous Methodologies and Research-Creation." *Yearbook for Traditional Music* 52 (2020): 23-40.

③2020年ICTMブック賞

Lonán Ó Briain. *Musical Minorities: The Sounds of Hmong Ethnicity in Northern Vietnam*. Oxford University Press, 2018.

2021年ICTMブック賞

Lorenzo Ferrarini and Nicola Scaldaferrì. *Sonic Ethnography: Identity, Heritage and Creative Research Practice in Basilicata, Southern Italy*. Manchester University Press, 2020.

4) ICTM 役員選挙結果の発表

会長 : Svanibor Pettan (スロヴェニア)

副会長 : Tan Sooi Beng (マレーシア)

理事 : Silvia Citro (アルゼンチン)

Jasmina Talam (ボスニア・ヘルツェゴビナ)

Kendra Stepputat (オーストリア)

5) 新事務局長

Ursula Hemetek (オーストリア) が退任し、Lee Tong Soon (アメリカ) が事務局長に就任した。

6) 投票

①理事の任期変更等を含む ICTM 定款の一部改訂について、投票で承認された。

② ICTM の名称について、International Council for Traditional Music and Dance または International Council for Music and Dance Traditions のいずれかへの変更を希望する会員が 87%に達したが、いずれの名称も変更に必要な 2/3 以上の得票数を集めることができず、現在の名称 International Council for Traditional Music が継続されることになった。

7) 第46回 ICTM 世界大会 (ポルトガル、リスボン、2022年) について

対面とオンライン併用のハイブリッド形式で開催予定である。

8) 第47回 ICTM 世界大会 (2023年) について

ガーナ大学 (University of Ghana) で開催されることが発表された。

2. 第46回 ICTM 世界大会について

日時: 2022年7月21日~27日 (新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当初予定されていた2021年7月から延期)

開催地: Institute of Ethnomusicology - Center for Studies in Music and Dance, および NOVA School of Social Sciences and Humanities, New University of Lisbon (NOVA-FCSH) (ポルトガル、リスボン)

テーマ

1. Engaging Global Health and Climate Crises through Music and Dance
2. Dance, Music, and Human Rights: Coexistence and Inequalities in the Contemporary World
3. Approaches to Archival Practices
4. Connected Communities: Ocean Trajectories and Land Routes
5. Music and Dance Cosmopolitanisms
6. Music and Dance Industries
7. New Research on Other Topics

各テーマについての詳細は、ICTM ホームページ (<http://www.ictmusic.org/>) の "Events - Next World Conference (Postponed to July 2022)" のリンクからご覧になれます (<http://ictmusic.org/ictm2022>)。発表申込は2021年9月15日で締め切られました。発表可否の通知は2021年

12月の予定です。

### 3. 第47回 ICTM 世界大会について

2023年に、ガーナ大学(University of Ghana)で開催されることが発表されました。

### 4. *Yearbook for Traditional Music* バックナンバーのオンライン・アクセスについて

毎年一回発行されている *Yearbook for Traditional Music* は2019年51号よりケンブリッジ大学出版から出版されるようになりました。それに伴いICTM会員の特典として、同誌のバックナンバー(1981年～現在)、および同誌の前身である *Yearbook of the International Folk Music Council*(1969–1980) と *the Journal of the International Folk Music Council*(1949–1968) のバックナンバーがオンライン上で無料閲覧できるようになりました。

閲覧方法は、以下の通りです。

①ICTMのウェブサイト(<http://ictmusic.org/>)を開き、ユーザーネームとパスワードを入力してログインする。

②左側に出てくる“Member Service”のメニューから“Your Account”を選択クリックする。

③“Benefits for members in good standing”の一覧から“Access the Yearbook for Traditional Music at Cambridge Core”を選んでクリックする。

④Yearbook for Traditional Musicのトップページが開き、検索ウィンドウが現れる。

⑤検索ウィンドウでキーワードや著者名で論文検索ができる他、その下にあるメニューから、最新号は“latest issue”、その他のバックナンバーは“all issues”をクリックして閲覧可能。

⑥記事の一覧がでてきたら読みたい論文にチェックを入れ、左側のメニューの“Actions for selected content”からPDFダウンロード、KindleやGoogle Driveへの転送などが可能。

## 東日本支部からのお知らせ

◇定例研究会発表募集(12月、2月例会)について

東日本支部では、2021年12月4日(オンライン開催)と、2022年2月5日(開催方式未定)の定例研究会における発表を募集しています。会報112号でもすでに広報しましたが、再度お知らせします。

発表をご希望の方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、E-mail、あればFax)を明記の上、12月例会については9月20日までに、2月例会については11月20日までに、東日本支部事務局にメールでお申し込みください。

なお、発表希望をご提出後1週間しても支部事務局から連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが、再度ご連絡ください。

◇「会員の声」投稿募集

東日本支部発行「東日本支部だより」には、会員の皆様からの情報を掲載する「会員の声」欄を設けています。研究会、講演会、展示会など、会員の活動に関連する情報がありましたら、東日本支部事務局までお知らせください。投稿方法などの詳細は『東日本支部だより』の最終ページをご覧ください。

[東日本支部事務局] E-mail: [tog.higashi@gmail.com](mailto:tog.higashi@gmail.com)

\*会報112号でメールアドレスに誤記がありました。お詫びして上記の通り訂正いたします。

◇例会情報は支部ホームページで紙媒体より早くご覧いただけます。

HPの例会情報は、「支部だより」や「例会案内チラシ」がお手元に届く1週間前には公開されます。HPで情報をチェックし、例会参加手続きをお早めにお済ませください。

## 西日本支部からのお知らせ

西日本支部定例研究会での研究発表を希望される方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、E-mail)を明記の上、下記、事務局までお申し込みください。

[西日本支部事務局]

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京都芸大伝音センター 竹内有一研究室気付

E-mail: [ytake2395@gmail.com](mailto:ytake2395@gmail.com)

## 竹内道敬氏・草野妙子氏のご逝去

当学会で長年にわたり理事・監事を務められた竹内道敬氏・草野妙子氏のご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 竹内道敬(みちたか)先生の思い出

あだ名はドーケー先生。いつも学生・教員が歓談する輪の中心におられました。そんな人柄と矛盾するようですが、「私は一匹狼」が口癖でした。私たちの前では大学教員というより研究者・物書きであり、邦楽プロデューサー、各種団体の相談役でもあり歌舞伎座イヤホンガイドもこなすという、学生にとっては謎多き一匹狼なものでした。今思えば、身の置き所に関わらず一社会人であれという心得を、身を以て示されていたのでしょうか。

先生は早稲田大学の演劇学の出身で、藤根道雄先生との出会いや新橋でのお仕事から三味線音楽の魅力に惹かれ、その探求のためには前例に頼ることなく、自ら史料を収集して解明に挑戦する、それによって日本の音楽学に不足していた何かを、数々の研究成果の中で示されました。その集大成を「竹内道敬文庫」として、専任教員をつとめた国立音楽大学の協力で結実させた学術的貢献は周知の通りです。

万年筆の達筆な先生でしたが一早くワープロを導入。文庫の目録作成は、Macの日本語版もWindowsもない時代にMS-DOSのPCで始まりました。先生もPCを率先して購入したものの、凝り性のため徹夜でいじり倒し、目をまわして寝込んでしまった由。トラウマとなり、最後まで最高級のワープロ専用機を愛用されました。よって先生からの電子メールは、とうとう見ることはありませんでした。

学生の頃、先生のあとに付いていくと、美味しい物にありつけました。楽理科懇親会の3次会4次会で学生に財布を開かせず電車の始発まで連れ添って下さるのは、きまってI先生とドーケー先生でした。そこで学生・教員の垣根を越えた熱い音楽談義が交わされ、怪しげな同人誌に発展したことも、古き良き思い出です。

天国でも史料をせっせと集め、たくさんの史料に囲まれて研究を続けておられることでしょう。先生、どうぞ安らかにお過ごしください。

竹内有一

## 草野妙子氏を悼む

草野妙子氏が7月15日に逝去されたとの報を、SNSに転載された新聞記事で知った。氏は1996年に沖縄県立芸術大学に教授として着任されるまで、首都圏のいくつもの大学で、長く民族音楽学および日本音楽史を講じておられた。そこで氏の薫陶を受けた会員は、東京にも沖縄にも数多くいらっしゃるはずであるが、私自身はその中に含まれない。そんな私が、韓国音楽研究の先達としての草野氏の思い出について、ここに一文を記すことをお許しいただきたい。

1984年は、草野氏が私に韓国音楽への導きをくださった年である。この年の3月、シナウイの公演で来日した演奏者たちが録音をするというので、草野氏が私ともう一人の学生を都内のレコーディングスタジオに呼んで見学の機会をくださった。同じ年の7月、私が初めて韓国を訪ねるにあたっては、3月公演の代表であり、以前武蔵野野大に留学した作曲家、朴範薫氏を私にご紹介くださった。そのご紹介がなければ、民主化の道半ばにあった当時の韓国の一地方で、言葉もよくわからない日本人の一学生が、民謡やわらべうたに接することなど到底かなわなかったであろう。それは80年代よりさらに研究困難な時代を知る氏の、私たち世代に対する温かい親心であったことを、今になって理解する。

そして同年10月、氏の著書『アリランの歌——韓国伝統音楽の魅力をさぐる』が刊行された。同書をいま読み返すと、李惠求、張師助両先生に代表される韓国音楽学の本流、当時韓国で台頭しつつあった民俗楽・民俗芸能研究、そして小泉文夫先生が示した民族音楽学の方法論が、ここに見事に合流していることに気づく。その視点の幅広さと先駆性は現在なお輝きを失わない。当時この待望の書を食べるように読むことは言うまでもなく、14年後の拙著『韓国音楽探検』執筆時にも同書は大きな目標であった。

思うに、草野氏の生涯のテーマは「交流史としての音楽史」であった。伎楽、高麗楽、朝鮮通信使、薩摩焼陶工の音楽伝承、学校唱歌、讚美歌を通して日韓音楽交流の痕跡を見出そうとする氏の研究は、日本人が韓国音楽を研究することの意味を私たちに問いかける。それと同時に、アジア音楽文化の豊かさを多くの日本人と分かち合うことで、自ら音楽交流史に参与されるお仕事も長年続けられた。氏の学恩に浴した後継世代の一人として、そのお志を受け継ぎ、発展させることをご霊前に誓う。謹んで故人のご冥福をお祈りする。

植村幸生

## 会員異動

## 個人情報のため削除



## 個人情報のため削除

## 新刊書籍

『アートマネジメントと社会包摂：アートの現場を社会にひらく  
(文化とまちづくり叢書 SALBOOKS)』

九州大学ソーシャルアートラボ(編)、水曜社、2,970円

『(アメリカ映画史) 再構築：社会派ドキュメンタリーからプロ  
ックバスターまで』 遠山純生、作品社、6,930円

『アメリカの(周縁)をあるく：旅する人類学』

中村寛・松尾眞(著)、平凡社、2,970円

『新たなインド映画の世界』

夏目深雪(編著)、松岡環(著)ほか、PICK UP PRESS 2,640円

『あるヴァイオリンの旅路：移民たちのヨーロッパ文化史』

フィリップ・ブローム(著)、佐藤正樹(訳)、法政大学出版社、

3,740円

『アントン・ブルックナー 魂の山嶺 新装版』

田代耀、春秋社、3,520円

『1曲1分でわかる！吹奏楽編曲されているクラシック名曲集：

吹奏楽ファンなら知ってオケ！』

柴田 克彦、音楽之友社、1,980円

『ウィーンに六段の調：戸田極子とブラームス』

萩谷由喜子、中央公論新社、1,980円

『ウイトゲンシュタイン家の人びと：闘う家族』

アレグザンダー・ウォー、中公文庫、1,650円

『ヴェドゥーの神々：ジャマイカ、ハイチ紀行』

ゾラ・ニール・ハーストン(著)、常田景子(訳)、ちくま学芸文庫、

1,760円

『エッセンシャル・ディクショナリー 音楽用語・作曲家』

リンジー・C・ハーンズバーガー(著)、

八木澤教司(監)、元井夏彦(訳)、

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス、

1,430円

『鬼と異形の民俗学：漂泊する異類異形の正体』

飯倉義之(監)、ウェッジ、1,540円

『音楽が変わる！魔法の言葉がけ やる気を引き出す音楽 ペッ  
ブトークガイド』 岩崎由純、音楽之友社、1,760円

『音楽の黙示録：クラシックとジャズの対話』

森本恭正・南博(著)、アルテスパブリッシング、1,980円

『ガールズ・メディア・スタディーズ』

田中東子(編著)・竹田恵子(著)ほか、北樹出版、2,090円

『科学で読み解くクラシック音楽入門』

横山真男、技術評論社、2,618円

『雅楽のひみつ：見かた・楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器  
超入門』

日本雅楽會(監)、メイツユニバーサルコンテンツ、2,530円

『考える身体』

三浦雅士、河出文庫、1,342円

## 図書・資料等の受贈

(2021年5月～8月、到着順)

『日本民俗音楽研究所紀要』第1号 日本とアジアの口琴

日本民俗音楽研究所

『音楽資料センター紀要』No.32 武蔵野大学音楽資料センター

『復刻 資料「中津川労音」—1960年代における地域の文化  
実践の足跡を辿る』 東谷護編著 風媒社

『楽道』5,6,7月号 (公財)正派邦楽会

『おとなのための中田喜直童謡曲集』

中田喜直子どもの歌研究会編 スタイルノート

『中田喜直童謡名選集～かわいひかくれんぼ・めだかのがっ  
こう～』CD2枚組 キングレコード

*Music and Marginalisation: Beyond the Minority-Majority  
Paradigm (Senri Ethnological Studies 105)* Ursula  
Hemetek, Inna Naroditskaya and Terada Yoshitaka

国立民族学博物館

『民俗芸能研究』第70号 民俗芸能学会

『中国民族音楽の世界』王耀華・郭小利・王州・劉富琳・  
王維 訳 長崎文献社

『雅楽だより』第66号 雅楽協議会

『雅楽のイロイロを科学する本』CD・DVD付き(日本伝統  
音楽研究センター研究報告13)

田敏智志・上野正章・アンドレア ジョライ 編

『日本伝統音楽研究』第17号

『語りの立体化そして復曲—狂言、能、題目立—』(DVD)

『平安から唐へ 糸でたどるいにしへの韻—琵琶・箏の古譜  
による琴曲の再現—』(DVD)

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

『東方學會報』No.120

(一財)東方学会

- 『記憶と人文学：忘却から身体・場所・もの語り、そして再構築へ』 三村尚央、小鳥遊書房、2,420円
- 『君に捧げるメロディ：ミシェル・ルグラン、音楽人生を語る』 ミシェル・ルグラン(著)、高橋明子(訳)ほか、アルテスパブリッシング、2,640円
- 『金のオタマジャクシ、そして感性の対話：世界に音楽が必要な理由』 近藤薫、花乱社、2,420円
- 『クラシック作曲家列伝：バッハからラヴェルまで12人の天才たちの愉快な素顔』 やまみちゆか(絵・文)、飯尾洋一(監)、マール社、1,870円
- 『交錯する宗教と民族：流と衝突の比較史』 鹿毛敏夫(編)、勉誠出版、3,080円
- 『「こころの旅」を歌いながら：楽と深層心理学のめぐりあい』 きたやまおさむ・富澤一誠(著)、言視舎、1,760円
- 『言霊の民俗誌』 野本寛一、講談社学術文庫、1,298円
- 『聖壕の四週間：あるヴァイオリニストの従軍記』 フリッツ・クライスラー(著)、伊藤氏貴(訳)、鳥影社、1,650円
- 『師としてのリスト：子ゲレリヒが伝える素顔のマスタークラス』 ゲレリヒ(著)、内藤晃(監・訳)ほか、音楽之友社、3,190円
- 『社会思想としてのクラシック音楽』 猪木武徳、新潮選書、1,760円
- 『シャンソンのすべて 1』 青木裕史(編)ほか、ロシア音楽出版会、4,950円
- 『宗教社会学：神、それは社会である』 奥井智之、東京大学出版会、3,080円
- 『14歳からの新しい音楽入門：どうして私たちには音楽が必要なのか』 久保田慶一、スタイルノート、1,760円
- 『書物・印刷・本屋：中韓をめぐる本の文化史』 藤本幸夫(編)、勉誠出版、17,600円
- 『新版 誰でもぜったい楽譜が読める!』 辻志朗、音楽之友社、1,980円
- 『生態人類学を挑む SESSION2 わける・ためる』 寺嶋秀明(編)、京都大学学術出版会、3,300円
- 『絶対音感を科学する』 阿部純一・宮崎謙一(編)ほか、全音楽譜出版社、2,860円
- 『大学生のための海外フィールドワーク：ログラム・コーディネーターの手引き』 長谷川愛、清風堂書店、2,420円
- 『地域と芸術文化投資』 西田陽介、大学教育出版、1,980円
- 『中国考古学論叢：古代東アジア社会への多角的アプローチ』 大貫静夫(編)、同成社、11,000円
- 『中国民族音楽の世界』 王耀華・郭小利(著)ほか、長崎文献社、8,800円
- 『著作権は文化を発展させるのか(人権と文化コモンズ)』 山田奨治、人文書院、3,520円
- 『ディアンジェロ《ヴェードゥー》がかけたグルーヴの呪文』 フェイス・A・ペニック(著)、押野素子(訳)、DU BOOKS、1,980円
- 『手帳と手書き譜から辿る フランシスコ・タレガ伝』 手塚健旨、現代ギター社、1,650円
- 『天皇と接吻：アメリカ占領下の日本映画検閲』 平野共余子、草思社文庫、1,980円
- 『東京80年代から考えるサブカル：ストリート・音楽・ファッション・宗教・現代思想』 仲正昌樹(監)、仲正昌樹(著)、図書新聞、2,000円
- 『なぜヒトだけが言葉を話せるのか：コミュニケーションから探る言語の起源と進化』 トム・スコット=フィリップス(著)、畔上耕介(訳)ほか、東京大学出版会、4,400円
- 『膠を旅する』 内田あぐり(監)、青木茂(執筆)ほか、国書刊行会、4,180円
- 『こっぴんセクシー歌謡史』 馬飼野元宏、リットーミュージック、2,200円
- 『日本疫病図説：絵こめられた病魔退散の祈り』 畑中章宏、笠間書院、1,760円
- 『日本音楽うた理論』 丹羽幸江、カワイ出版、1,760円
- 『日本だんじり文化：撰河泉・瀬戸内の祭で育まれた神賑の民俗誌』 森田玲、創元社、2,750円
- 『バフチン、生涯を語る』 ミハイル・バフチン(著)、佐々木寛(訳)ほか、水声社、4,400円
- 『ピアノの日本史：楽器産業と消費者の形成』 田中智晃、名古屋大学出版会、5,940円
- 『「ピーターと狼」の点と線：プロコフィエフと20世紀ソ連、おとぎ話、ディズニー映画』 菊間史織、音楽之友社、2,200円
- 『東アジアにおける南島研究：南島史学会創立50周年記念論集』 南島史学会(編)、春風社、6,490円
- 『フェスとデモを進化させる「音楽に政治を持ち込む」ってなんだ!?!』 大久保青志、イースト・プレス、1,870円
- 『復刻資料「中津川労音」1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る』 東谷護、風媒社、3,520円
- 『ブリティッシュ・エイジアン音楽の社会学：交渉するエスニシティと文化実践』 栗田知宏、青土社、2,860円
- 『プロの常識 ピアノを教えるための全10章』 北村智恵、音楽之友社、2,530円
- 『ベトナム南部 一歴史・文化・伝統(シリーズくベトナムを知る>)』 チャン・トゥアン(原作)、橋本和孝(監訳)、ビスタピー・エス、5,940円
- 『女の弦楽器ヴィオラ・アルタを追い求めて』 平野真敏、河出書房新社、1,991円

- 『宮座義礼と「特殊神饌」:奈良県北・中部及び河内地域を中心に』  
吉川雅章、弘文堂、5,060円
- 『ミュージック・サナトロジー:やわらかなスピリチュアルケア』  
里村生英、春秋社、3,300円
- 『〈みる／みられる〉のメディア論:理論・技術・表象・社会から考える視覚関係』  
高馬京子(編)ほか、ナカニシヤ出版、2,860円
- 『山・鉾・屋台の祭り研究事典』  
植木行宣(監)ほか、思文閣出版、7,150円
- 『やんば先生の楽しい音楽!(音楽指導ブック)』  
岩本達明、音楽之友社、2,310円
- 『ライブ・エンタテインメントの社会学:イベントにおける『受け手』と『創り手』の関係に着目して 増訂版』  
中川和亮、五紘舎、2,750円
- 『ラヴェル』  
ヴラディミール・ジャンケレヴィッチ(著)、福田達夫(訳)、白水社、5,280円
- 『ルート66を聴く:アメリカン・ロード・ソングは何を歌っているのか』  
朝日順子、青土社、1,980円
- 『ロスト・イン・パンデミック:失われた演劇と新たな表現の地平』  
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館(監)、後藤隆基(編)、春陽堂書店、1,980円
- 『忘れられた祭り:京都染織祭 恐慌・戦争・復興を駆ける』  
北野裕子(著)、京都染織文化協会(監)、思文閣出版、1,650円

## 新発売視聴覚資料

### ●CD

- 『残月 八重衣 — 第十七回藤本昭子演奏会 —』  
藤本昭子・米川文子ほか、VZCG-839、3,300円
- 『真言宗 豊山聲明 弘法大師正御影供 — 金剛界立二箇法用 付中曲理趣三昧 — (2枚組)』  
迦陵頻伽聲明研究会、VZCG-8584~5、5,500円
- 『新・民謡いちばん 伊藤陽扇』  
伊藤陽扇、COCJ-41527、1,320円
- 『新・民謡いちばん 小野田浩二』  
小野田浩二、COCJ-41524、1,320円
- 『新・民謡いちばん 丹みどり』  
丹みどり、COCJ-41526、1,320円
- 『新・民謡いちばん 原田直之』  
原田直之、COCJ-41523、1,320円
- 『新・民謡いちばん 湯浅みつ子』  
湯浅みつ子、COCJ-41525、1,320円
- 『ピアソラ・尺八・宇宙(そら) ~奇蹟の尺八~』

三橋貴風、COCJ-41493-4、4,400円

- 『ピアノと語りによる哀歌 無声慟哭ノオホーツク挽歌』  
林洋子(語り)・吉村安見子(ピアノ)、VZCG-841、3,300円
- 『椰子の実 / 「サラダ記念日」より』  
佐野隆光、COCJ-41433、1,550円

### ●DVD

- 『真言宗 豊山聲明 弘法大師正御影供 — 金剛界立二箇法用 付中曲理趣三昧 —』  
迦陵頻伽聲明研究会、VZBG-63、6,600円

## 編集後記

第72回大会プログラムおよび関係文書とともに会報第113号をお届けいたします。ご寄稿いただいた方々には心より御礼申し上げます。

今号は、東京2020オリンピックと新型コロナウイルス感染のさらなる拡大の深刻な状況が連日報ぜられる最中の編集となりました。今大会も昨年に引き続きオンライン開催となりますが、このような時勢でもあり、学会の情報デジタル化に向けた取り組みも一層強化されることとなります。会報につきましても、一部試験的にデジタル配信を始めるなど、会員の皆様のお考えを踏まえつつ、今後の会報のありかたを模索しております。ひきつづきよろしくご支援ご協力をたまわりますよう、お願い申し上げます。 澤田篤子

会報編集委員会

理事: 澤田篤子 増野亜子

委員: 山下正美

参事: 今泉佳奈、柴森優花、土田まどか、横山洸、吉岡倫裕

